

共同利用実施報告書(研究実績報告書)
(災害軽減研究)

1. 課題番号 2014-Y-火山5 (※)

2. 研究課題名 (和文、英文の両方をご記入ください)

和文: 十勝岳と雌阿寒岳における噴火推移の高分解能な解析とマグマ供給系

英文: Magma plumbing system and high resolving analysis for eruption sequences in the Tokachidake and Me-akan volcanoes, Hokkaido.

3. 研究代表者所属・氏名 北海道教育大学旭川校・和田恵治
(地震研究所担当教員名) 企画部

4. 参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	参加内容
和田恵治	北海道教育大学旭川校・教授	研究総括, 地質調査, 鉱物・ガラスの分析
佐藤鋭一	神戸大学・助教	地質調査, 噴出物の岩石学的検討

5. 参加者が分担した役割 (200-400 字程度で記入してください)

北海道の活火山で噴火準備段階にある雌阿寒岳と十勝岳の両火山における噴火推移を対応させたマグマ供給系モデルを構築することを目的とした研究である (総括: 和田)。

雌阿寒岳で最新のマグマ噴火と考えられる阿寒富士の玄武岩の活動について, 噴出物の層序を明らかにするとともに (地質調査: 佐藤・和田), 噴出物の顕微鏡観察および EPMA を用いた鉱物化学組成分析を行った (組成分析: 佐藤・和田)。さらに鉱物化学組成分析の結果と噴出物の層序を対応させ, 玄武岩マグマ溜まりの変遷の過程を推定した (岩石学的モデル: 佐藤・和田)。

十勝岳では, 1962 年噴火の 62-2 火口近傍での地質調査を実施し, 噴出物層序の柱状図作成と記載, それら噴出物の岩石組織及び化学組成の分析を実施した (地質調査: 和田・佐藤)。1962 年噴火と 1988-89 年噴火における火山噴出物の微細組織の解析も行った (組成分析・組織解析: 和田・佐藤)。

6. 研究実績 (論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無)

- ・ 佐藤鋭一・和田恵治 (2014) 雌阿寒岳, 阿寒富士の噴火史と噴出物の岩石記載. 日本地球惑星科学連合 2014 年大会, SVC54-P06, パシフィコ横浜, 2014 年 5 月 1 日. (ポスター発表) (謝辞への記載無し) (<http://www2.jpgu.org/meeting/2014/session/S-VC54.html>)
- ・ Wada, K., Hinata, H., Nakaoka, Y., and Sato, E. (2014) The transition of magma activity between 1962 and 1988-89 eruptions in Tokachidake volcano, central Hokkaido, Japan: difference in eruption style and its magma plumbing system. 2014 GSA annual meeting, 2014 年 10 月 21 日, バンクーバー (カナダ) (ポスター発表) (謝辞への記載無し). (<https://gsa.confex.com/gsa/2014AM/webprogram/Paper245145.html>)
- ・ 和田恵治 (2014) 火山を主体とした北海道中央部と東部のジオパーク構想. 日本火山学会 2014 年度秋季大会, 2014 年 11 月 2 日, 福岡大学 (福岡市), 講演予稿集, p2 (謝辞への記載無し)。
- ・ 和田恵治・佐藤鋭一 (2015) 十勝岳と雌阿寒岳における噴火推移の高分解能な解析とマグマ供給系. 平成 26 年度「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」成果報告シンポジウム, P1-73, 東京大学武田先端知ビル, 2015 年 3 月 2 日. (ポスター発表)